

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.54
2020 10 月号
[October]

特集

自工会 変革・会長会見

連載

自動車業界ワンチームで 感染症対策と支援活動を展開③

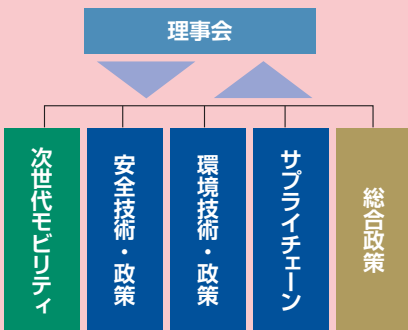
自動車博物館関連施設紹介シリーズ

日産自動車／ニッサンパビリオン



12委員会から5委員会に変革


〔新体制〕




*車種別委員会、モーターショー委員会/部会除く

2020年10月主要自動車関連イベント

・イベント会場やサーキットに出掛ける際は感染症対策をしっかりと行ってクルマ・バイクを楽しみましょう！

 は四輪車レース

 は二輪車レース

国内イベント

日時	場所	名称
10月20-23日	オンライン開催	CEATEC 2020 ONLINE
21-23日	愛知県 ポートメッセなごや	名古屋 オートモーティブワールド
21日-年末	オンライン開催	福祉機器WEB2020

国内モータースポーツ

日時	場所	名称
10月 11日	宮城県 スポーツランドSUGO	 スーパー耐久 第2戦
11日	愛知県 キョウセイドライバースランド	 全日本トライアル選手権 第2戦
18日	宮城県 スポーツランドSUGO	 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦
18日	栃木県 ツインリンクもてぎ	 全日本ロードレース選手権 第4戦
18日	愛知県 美浜サーキット	 全日本スーパーモト選手権 第4戦
25日	三重県 鈴鹿サーキット	 SUPER GT Round6 鈴鹿 GT300km レース
25日	宮城県 スポーツランドSUGO	 全日本トライアル選手権 第3戦
25日	三重県 いなベモータースポーツランド	 全日本エンデューロ選手権 第3戦
10月31日-11月1日	大分県 オートポリス	 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.4&5

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
10月 8-11日	イタリア アルゲーロ	 WRC 第6戦 ラリー・イタリア
11日	ドイツ ニュルブルクリンク	 F1 第11戦 アイフェルGP
11日	フランス ブガッティ・サーキット	 Moto GP 第10戦 フランスGP
18日	スペイン モーターランド・アラゴン	 Moto GP 第11戦 アラゴンGP
18日	ポルトガル エストリル・サーキット	 ワールドスーパーバイク 第8戦
25日	ポルトガル アウトードロモ・ インテルナシオナル・ド・ アルガルヴェ	 F1 第12戦 ポルトガルGP
25日	アメリカ セント・ピーターズバーグ市街地 コース	 インディカー・シリーズ 第14戦 セント・ピーターズバーグGP
25日	スペイン モーターランド・アラゴン	 Moto GP 第12戦 テルエルGP

JAMAGAZINE 2020年 10月号

発行日 2020年10月8日
 発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室
 発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
 広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



02

特集

自工会 変革・会長会見

08

連載

自動車業界ワンチームで 感染症対策と支援活動を展開③

11

自動車盗難等の防止に関する 官民合同プロジェクトチーム 自動車盗難防止キャンペーンの実施

12

自工会 理系女子応援イベント Drive for the Future ～あなたの想いを走らせる仕事～

14

自工会・2020年 秋の交通安全キャンペーンのご案内

16

自動車博物館関連施設紹介シリーズ

日産自動車／ニッサン パビリオン

17

記者の窓

「ああ、夏休み」

朝日新聞社 稲垣 千駿

- 1 2 自工会 変革・会長会見
- 3 自動車業界ワンチームで感染症対策と支援活動を展開③
- 4 自工会 理系女子応援イベント
- 5 日産自動車／ニッサン パビリオン

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)





豊田章男会長

100年に一度の大改革に“自工会も対応” 新たなモビリティ社会づくりに挑戦 約100人の職員が自動車業界の代弁者に

今年4月に豊田会長は「緊急事態宣言のもとで、私たちが自動車産業がやるべきことは3つある」と述べ、ひとつ目は、モノづくりの力を活かして、医療従事者をはじめとしたエッセンシャルワーカーの方々を少しでもサポートする。ふたつ目は、なんとしても事業を継続して、内需の維持に貢献しよう。そして、3つ目はやがて復興の兆しが見えた時に、自分たちが復興の牽引役になっていこう。そのために準備をしておこう、というものでした。この3つの統括的な役割を果たすのが自動車メーカー14社で構成する日本自動車工業会(自工会)で、この組織が発足以来、72年目にし「新しいモビリティ社会づくり」に向けて思い切った改革を進めています。9月24日の会長会見では新役員や新体制及び、菅新政権に対する期待を発表しました。

《自工会改革》

自動車は100年に一度の大変革を迎えております。CA SE(コネクテッド/自動化/シェアリング/電動化)など、もっと幸せな暮らしを実現するための新たなモビリティ社会づくりへの挑戦です。この挑戦は、我々、自工会の会員各社が、本当に、心をひとつにして、力を合わせていかなければ、実現できないものだと思います。その軸となっていくのが、やは

り、我々自工会であるべきです。自工会は、1948年、70年ほど前に「自動車製造工業の健全な発展を図ること」を目的として発足いたしました。その後、経済成長やモータリゼーションが進む中、1967年に諸団体とも合流し、今のカタチの自工会となりました。当時、排ガス規制や貿易摩擦など、個社では乗り越えがたい苦しみがある中、オールジャパンで立ち向かおうと、自

工会は、まさに、その軸となっていきました。

■再びオールジャパンで 結束

100年に一度の変革を迎えた今、自動車産業は、再び、オールジャパンで結束していかないといけません。モビリティ

業界全体の軸役を果たすように 仲間のために、もっと汗をかく

私は、現在、2度目の自工会会長職を務めさせていただいております。

今期は、会員各社の皆さまに背中を押していただき、この春からは、3年目の任期に突入いたしました。

来年を含めると4年連続で、自工会の仕事をしていただくことになりました。長く自工会に携わらせていただき、強く感じている場合がございます。2年毎に会長が変わる体制であったことも、ひとつの要因かもしれませんが、自工会が、とても硬直

の未来を、この日本から、つくることができれば、我々が事業を展開している世界の国々にも笑顔になつていただけたと思います。

そうして、世界からもありがとうと言っていただけのような、日本の自動車産業になつていければとも願っております。

した組織になつていました。

例えば、「組織の構成」ひとつ取っても、50年間、全然、変わっておりません。これでは、自動車産業の未来にむけて、業界全体の軸の役割を果たしていくことは難しいのではないかと感じています。そして、4年の任期をいただいたからこそ、私に出来ることが、なにかあるのではと考え、自工会が本当に頼れる業界団体に生まれ変わるための具体的な提案を、いくつかさせていただきました。

9月24日の理事会で、理事の

皆様から、その提案に賛同をいただいたところで、日本には様々な道がございます。それぞれの道に合ったモビリティが日本でも生まれ、発展を遂げてまいりました。そんな、それぞれの役割を持ったモビリティの経営トップの方々は今回から、副会長を担っていただくことになりました。二輪代表のヤマハ日高社長、大型車代表のいすゞ片山社長、お二人に、新たに、副会長を務めていただきます。昨年より副会長の乗用車代表 ホンダ神子柴会長、そして私も含め、このメンバーで、とにかく、頼られる自工会に変わつてまいりたいと思っております。改めて、よろしくお願いたします。

ただ、会長・副会長だけが動いていても、本当に変わっていくことはできません。いずれまた、トップは変わつていってしまう。会員各社から構成される業界団体としては、やむを得ないことかもしれません。

■この先もブレない体制に

しかし、トップが変わつても、自工会は、この先も、ずっ

と、ブレずに「自動車産業の役に立つ」「国の役に立つ」ための組織であり続けて欲しいと、私は願っています。自工会に働く約100名の職員は、全国に550万人いる自動車産業の仲間達の代弁者だと考えております。職員たちが、仲間たちのために、もっと汗をかいていこうと思えるよう、委員会などの体制も見直してまいります。

トップも含め、全職員が、自動車産業全員の想いを背負う覚悟と自覚を持つて、なんとか役に立つていきたいと、自ら動いていくそんな自工会に生まれ変わっていきたく思います。

新たにいただいたこの2年の任期を通じて、この変革をなんとしても成し遂げ、定着させていきたいと考えております。今日ここでご紹介した新体制の皆さんとともに、心を合わせて「未来の幸せをつくる自動車産業」「本当に頼りにされる自動車産業」を実現してまいりますのでメディアの方々も含め、多くの皆さまに、引き続き、応援いただければと思います。

二輪車ファン拡大をリード



これから生まれ変わっていく日本自動車工業会で、副会長として、また二輪車代表として、しっかり汗をかいていきたいと思えます。

二輪車は、ユーザーの皆様にも、安全、便利、そして楽しさ、という価値を提供すべく、日本のメーカーが努力し続け、世界にその価値を提供して参りました。自工会では、その価値を広げるための世界標準やルール作り、啓発活動に取り組んできましたが、ともすると守りの姿勢になりがちだったと感じています。

これからは、産業発展による国への貢献、そして社会の持続的発展のために、来るべき電動化も念頭に、世界標準策定や二輪ファンの拡大をリードしていく、攻めの組織になっていきたいと考えています。業界各社とともに、精一杯取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

経済、国民を“支える力”に



自動車業界は、「百年に一度の変革期」の真っ只中であることに加えて、昨今の「自然災害」や「コロナ禍」などの予想できない外部環境変化の中で、我々大型車メーカーも「新しい未来に向けて、様々な社会課題を解決していくため、新たなチャレンジ」をしていかなければならないと考えております。

トラックやバスなどの大型車は、経済活動や国民生活を支える重要な「社会インフラ」＝ライフラインの役割を担っております。変化の大きい時代であるからこそ、尚更に、この経済活動や国民生活を「支える力」をより強固なものに発展させていかなければならないと考えております。

今後は、豊田会長をはじめ、神子柴副会長、日高副会長と力を合わせ、日本自動車工業会の「頼れる業界団体」への「変革」を実現していく所存でございます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

当事者意識と覚悟



豊田会長から「未来の幸せをつくる自動車産業」「本当に頼りにされる自動車産業」を実現したい、とのお話がありましたが、今回の変革は、

業界として一枚岩で力を合わせ、未来に挑戦するんだ、という豊田会長の強い想いに我々会員各社が賛同し、スピードをもって準備が進められ、実行されたものです。

この変革では、会員各社に、自工会への取り組みの意識改革が求められ、重責を担う『当事者意識』と『覚悟』をもって『汗をかいて』取り組むことが共通の価値観・行動規範として求められるものと理解しています。即ち、これまで以上に会員各社が自工会事業を自ら運営していく覚悟が必要であると認識しており、その意味で、改めて副会長として身の引き締まる思いでございます。

今後、「交通事故ゼロ」・「環境負荷ゼロ」を目指す取り組みは勿論のこと、新しいモビリティ社会への挑戦を通じて、二輪・四輪のお客様、さらには広く生活者の皆様の期待に応えられるよう、私自身微力ではございますが、今回新たに就かれた日高副会長、片山副会長と力を合わせ、豊田会長を強力にサポートし、尽力する所存でございます。

今後共宜しくお願い致します。

(会見あいさつから抜粋)

新理事名簿

	理事	社名・役職	
会長	豊田 章男	トヨタ自動車株式会社	代表取締役社長
副会長	神子柴 寿昭	本田技研工業株式会社	取締役会長
◇	○日高 祥博	ヤマハ発動機株式会社	代表取締役社長 社長執行役員
◇	○片山 正則	いすゞ自動車株式会社	代表取締役社長
◇	永塚 誠一	一般社団法人 日本自動車工業会	専務理事
理事	鈴木 俊宏	スズキ株式会社	代表取締役社長
◇	中村 知美	株式会社SUBARU	代表取締役社長
◇	奥平 総一郎	ダイハツ工業株式会社	代表取締役社長
◇	小林 耕士	トヨタ自動車株式会社	代表取締役執行役員
◇	内田 誠	日産自動車株式会社	代表執行役社長兼 最高経営責任者
◇	下 義生	日野自動車株式会社	代表取締役社長
◇	丸本 明	マツダ株式会社	代表取締役社長兼CEO
◇	加藤 隆雄	三菱自動車工業株式会社	取締役代表執行役CEO
◇	ハートムット・シック	三菱ふそうトラック・バス株式会社	代表取締役社長・ 最高経営責任者(CEO)
◇	酒巻 孝光	UDトラック株式会社	代表取締役社長
◇	和辻 健二	一般社団法人 日本自動車工業会	常務理事
◇	○矢野 義博	一般社団法人 日本自動車工業会	常務理事・事務局長

○印: 新任

●理事会は各社トップによる決定の場とし、委員会とのコミュニケーション強化を通じて、重点方針に基づく事業と新規チャレンジを推進し、活動成果の可視化を図ります。

会長・副会長体制は、新たなモビリティ社会で役割が異なっていく二輪車・大型車の代表会社に副会長として加わって頂き、新体制となります。

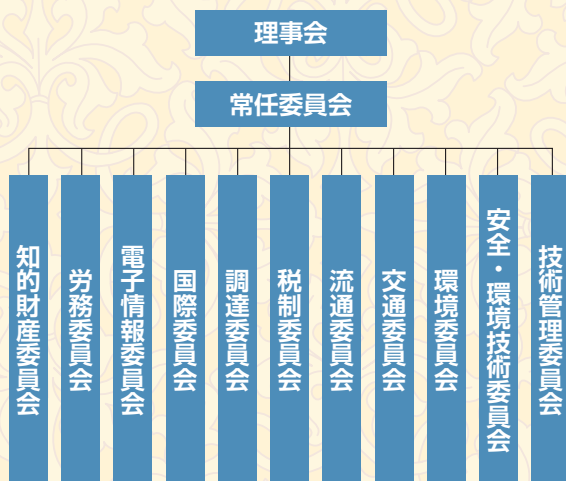
一般社団法人日本自動車工業会(会長:豊田章男)は、新たな価値を創造するモビリティ社会の実現、及び、戦略産業としての更なる進化に向け、10月1日より組織体制を大きく変更します。

新委員会組織 (2020.10.01~)

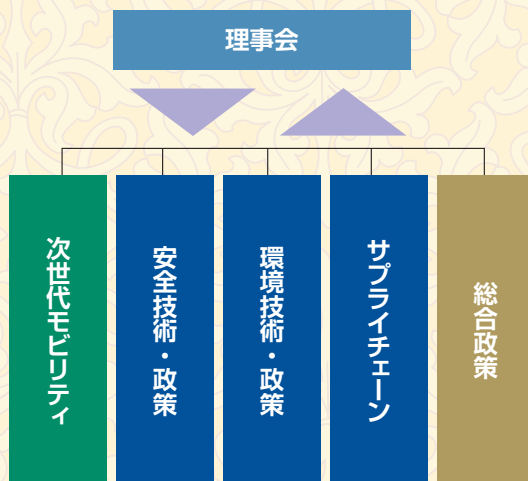
- 委員会組織については、各組織の役割を明確化し、事業遂行に最適な編成に見直します。具体的には、新領域を強化の上、新たな役割に応じて機能の集約と階層の簡素化を行います。また、委員会間の連携を強化して統合的な事業推進を図ると共に、事業評価を行う組織を新設し、組織ガバナンスを強化します。

12委員会から5委員会に変革

〔旧体制〕



〔新体制〕



*車種別委員会、モーターショー委員会/部会除く



ロゴに込めた想い・意味

- 疾走感をイメージ。大変革・困難な時代、明るい未来に向かって業界一丸となって駆け抜ける。
- 青い円：青は誠実、信頼、円は地球をイメージ。日本の社会・経済、美しいホームプラネットを支える。

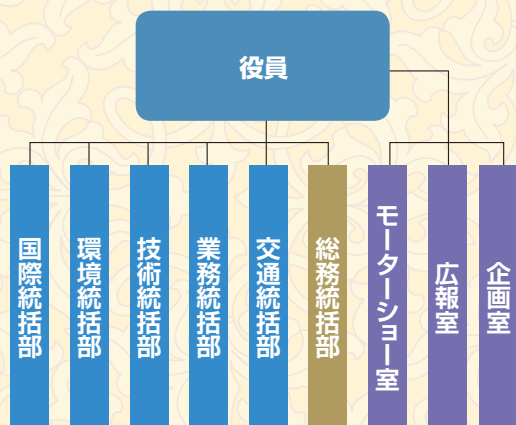
自工会ロゴの変革

今回の自工会変革を機に、自工会ロゴを職員の発案により一新し、新生自工会を推進するシンボルとして参ります。

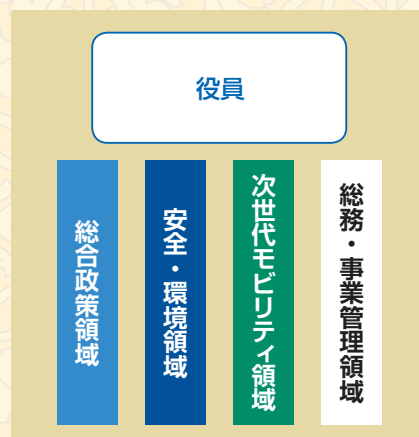
事務局新組織 (2020.10.01~)

- 新しい委員会体制の下、役割を遂行し、成果創出へのさらなる貢献をはかるため、事務局組織についても大幅に見直しを行います。メンバー会社と事務局がさらに一体となり、様々な活動にチャレンジしてまいります。

〔旧体制〕



〔新体制〕



会長挨拶「新政権への期待」

先日、内閣総理大臣の交代がございました。

8年にわたり安定した舵取りをいただいたこと、安倍前総理に、まずは「ありがとうございました」と、お礼を申し上げたいと思います。

特に、海外諸国に向け「顔の見える日本のトップ」としてリードいただき、海外で事業を展開する我々に最大限のお気遣いをいただいたこと、本当に感謝しております。

そして、前総理を、官房長官としてずっと支えられていた菅さんが新たなリーダーとして総理に選ばれました。

「国民のために働く内閣」とおっしゃられた言葉、私どもも、とても頼もしく思っております。

我々自動車産業も、日本国民のため、国のため、という思いで日々仕事しております。



新内閣が「国民のために働こう」といった時、自動車産業のチカラを、もっと「あてにしていきたい」と思っていただけよう、私どもも努力を続けて参りたいと思います。



- ▲移動式のため福祉施設や避難所などに
出向いて検査が可能
- ▲徳島県立中央病院(徳島県徳島市)で
使われる移動型PCR検査施設

電動パワーステアリングメーカーの「ジェイテクト」 トレーラータイプ「移動型PCR検査施設」を開発

電動パワーステアリングを初めて開発・量産し、今でも世界シェアで3割を握る株式会社ジェイテクト(名古屋市中村区、佐藤和弘社長)。「新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、トレーラータイプの「移動型PCR検査施設」を急ぎよ開発し、徳島県に提供しました。東日本大震災の被災地支援をルーツとする、トヨタグループ「ココロハコプロジェクト」※の一環ですが、研究開発部門を率いる林田一徳常務役員は「将来的にはMaas(サービステクノロジー)の取り組みとしても考えている」と話す、本医療支援についてご紹介します。

■もともと縁の深い 徳島県で産学連携を強化

自動車メーカーや他のサプライヤーと同じように、ジェイテクトも需給の緩和に向けて従業員用のマスクを内製したり、グループの光洋機械工業株式会社(大阪府八尾市、小西義和社長)が医療従事者用の防護服800枚を作り、地元の八尾市立病院に寄贈したりと新型コロナウイルス対策に貢献してきました。移動型PCR検査施設の開発と提供もこの一環で、国立大学法人・徳島大学(野地澄晴学長、徳島県徳島市)と開発を進

めていた「移動式試験施設を急ぎよ、改造したものになります。ジェイテクトの前身の1社である旧光洋精工の創業者、池田善一郎氏が四国出身であり、今でもベアリングを製造する四国工場(徳島県板野郡)やグループ会社があります。徳島大学はまた、理工学部のほか医学、薬学、自然科学など幅広い學術領域を持ち、産学連携を強化していたジェイテクトと2018年から共同研究を始めました。翌2019年には新たな領域でイノベーション(革新)を生み出そうと、両者は包括的な連携協定を結びました。

2019年には新たな領域でイノベーション(革新)を生み出そうと、両者は包括的な連携協定を結びました。

▲林田一徳常務役員
 (研究開発本部長)
 ■写真左と松本崇
 FFR部長



▶ジェイテクトは電動パワーステアリングの世界シェアで約3割を占める

その後、研究ニーズを踏まえ、移動式試験施設の開発を両者で進めてきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、衛生対策をすでに備えたこの施設での社会貢献、具体的にはPCR検査施設に使えないかと、今年4月から改造に着手しました。

■「やりたいこと」ではなく「いつになったら喜ぶぞ」もいえるか

改造を手がけたのは同社研究開発本部の「FFR部」です。

同部は新たな事業領域を開拓するため約4年前に新設されました。FFRとは「フューチャー&フロンティアリサーチ」の略です。松本崇FFR部長は「コロナ禍で、我々には何ができるんだろう」と議論しました。苦労したのは「何が求められているか」です。我々がやりたいことをやればお役に立てる

わけではないので、病気を心配される人や医療従事者にどうしたら喜んでもらえるか、という視点で議論を重ねながらこういう形になりました」と振り返ります。

約12平方メートルのトレーラー内はウィルスを拡散させないよう陰圧仕様とし、フリーンルームにも用いられるHEPAフィルターでウィルスを吸着除去します。施設としてはWHO(世界保健機関)などが定める「BSL(バイオセーフティレベル)2」に合致しており、PCR検査装置のほか滅菌装置や冷蔵・冷凍保管庫、流し台なども備えています。7月17日から徳島県立中央病院で検査が開始され、8月末までに35件の検査を実施したといいます。

ジェイテクトは今後、医療従事者などからの意見を踏まえ、完成度を高めたトレーラーをもう1台製作し、今年中にも徳島県に提供する予定です。県では「これまでは移動式という発想

がなかったが、今後は広く活用していければと思っている」「保健福祉部健康づくり課と話しています。

■コロナ支援やオープンイノベーションがSDGsのゴールを引き寄せる

相次ぐ大規模な自然災害やコロナ禍で国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)が注目されています。自動車産業と縁が深いのは環境保護や交通事故

死者の抑制で、CASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)やMaaSもこうした延長線上にあります。林田常務役員は今回の移動型PCR検査施設の発想を応用し「色々な移動体の中で、皆様方に使ってもらえるような施設が考えられる」と話します。

一方、徳島大学との包括協定のもとで進める研究は自動車分野に限られません。今年5月に

は、徳島大学のベンチャー企業と提携し、食用ココロギの生産を目指すと発表しました。食用ココロギは飼育時の環境負荷が小さく、良質なタンパク源を供給できるとして注目されています。徳島大学では約30年前からココロギの研究に取り組んでおり、ジェイテクトも2019年から研究に加わりました。同社の自動化技術やIoT(モノのインターネット)技術、品質管理技術を駆使し、効率的に食用ココロギを生産するのが狙いです。

ジェイテクトに限らず、自動車産業が研究開発や設計、生産、品質管理など各部門で築き上げた膨大なノウハウは、他の産業やスタートアップ企業にとって、宝の山と言えるでしょう。オープンイノベーションや、今回のような業界を挙げたコロナ対策への取り組みによって、こうした人材やノウハウが世の中に広く浸透していけば、SDGsが目指すゴールもまた、近づいてくるのではないのでしょうか。

※「コロナ禍プロジェクト」とは、東日本大震災の被災地を支援するために、全国から心を運びたいという気持ちを込めて、トヨタ自動車、トヨタ販売店及びその従業員が、継続的かつ長期的に実施してきた支援活動の総称です。今回は、新型コロナウイルス感染症で闘病中の方、日夜奮闘されている医療従事者、政府・自治体関係者の皆様に対して、何か貢献できないかとの思いから、トヨタグループが力を合わせて取り組む支援活動の総称を「コロナ禍プロジェクト」といたしました。

ジェイテクト
常務役員・研究開発本部長

はやしだ かずのり
▶▶▶ **林田 一徳**氏が語る



新しい領域にも挑む 仕事で生きがいを感じてもらおう

■FFR部の立ち上げ

我々は、ステアリングや駆動系のJTEKTブランド、軸受のKOYOブランド、工作機械・メカトロニクスのTOYODATAブランドを持っています。この3ブランド・4事業本部の技術を活かし、シナジーでOneJTEKTとして色々な開発を進めているところです。私が担当する研究開発本部は色々なコア技術を持っていますが、4年ほど前には、4事業本部にとられない、新しい領域の研究開発をしてい

こうとFFR(フューチャー&フロンティアリサーチ)部を立ち上げました。

■SDGsへの貢献&イノベーション

新領域では、このFFR部であつたり、人工知能(AI)も手がけるデータアナリティクス研究部などをベースに、既存の事業が持っているコア技術それからここ数年は外部の機関と一緒に連携し、アジャイル(機敏)に研究を推進するということで技術の創出を目指しています。新領域に挑戦する狙いは、我々の祖業であるものづくり、コトづくりを通じてSDGsへの貢献を目指すことです。とくに環境・エネルギー、生物資源に特化して取り組んでいます。

■PCR検査施設は徳島大学と連携

また、数年前から包括連携にも力を入れており、産業技術総合研究所や東京工業大学などと組んでいます。今回の移動型PCR検査施設は徳島大学との包括

連携の中で生まれたものです。徳島大学は総合大学で、医学、薬学、生物資源、海洋関係など手広くやられている。最初は理工学部などからお付き合いしましたが、例えば医工連携のように、我々の工学的な立ち位置と医学や薬学、生物資源を一緒にやることで、特に新しい領域となると、なかなか社内にはコア技術がないところを大学に期待しています。

■新しい仕事にも意欲的

私は研究開発を担当して5年ほどになります。社内にイノベーション(革新)を呼びかけていますが、最初の1、2年はなかなか響きませんでした。そこで「何のために仕事をしているのか」と問いかけてみました。もちろん最終的には「世のため人のため」という部分もありますが、「1人ひとりに仕事で生きがいを感じてもらおう」とも大事で、このために環境や風土も変えてきました。最近では、今回のような新しい仕事にも抵抗なく入っていけるようなところがあつて、結果が少しずつ出つつあると感じています。

自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム

自動車盗難防止キャンペーンの実施

「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」では、自動車ユーザーに対する自動車盗難の注意喚起、盗難防止対策の理解促進、必要性の訴求を目的として、2020年10月7日(水)から20日(火)まで、第20次自動車盗難防止キャンペーンを実施します。

盗難防止対策があるかぎり、

自動車盗難は 栄えない!

©タツノコプロ

STOP THE 自動車盗難!



自動車ドロボーから愛車を守れ!

YouTubeでスペシャル動画を配信中!



■ キャンペーン内容

(1) ヤッターマンがドロボー一味による自動車盗難から自動車を守る動画を配信

タツノコプロ制作のアニメ『タイムボカンシリーズ ヤッターマン』のヤッターマンが自動車盗難防止キャンペーンのキャラクターを務めます。動画では正義の味方であるヤッターマンが、次の6つの対策を駆使して、自動車盗難を企むドロボー一味から自動車を守ります。

(2) ポスターの掲出、チラシの配布

大切な愛車を盗まれないよう、複数の盗難防止対策をしましょう。

イモビライザーの装着

ID照合



偽造キー対策には、「イモビライザー」が効果的。鍵のIDコードを電子的に照合するので、IDコードが一致しないとエンジンが始動しません。

車を離れる際のドアロック



たとえ数十秒程度の短い時間でも、施錠せずに車から離れるのは非常に危険。車を降りる前に必ず窓を閉めて、ドアロックを習慣に。

盗難防止機器の活用



施錠したのに被害に遭ったというケースは全体の70%以上。パー式ハンドルロック、センサー式警報装置、GPS追跡装置、電波遮断キーケース[®]などを活用し、盗難防止効果を高めましょう。
※効果を確認した上で、使用しましょう。

貴重品の置きっ放し厳禁



財布やバッグ、スマートフォン、タブレット端末、ノートパソコンなどの車内放置は危険。貴重品は車内に置かず、車から離れる際は必ず持ち出しましょう。

自動車部品にも盗難防止対策



ナンバープレートやタイヤ・ホイール等の部品ねらいにも注意が必要です。盗難防止ネジでしっかり固定するなどの対策をしましょう。

安全な駐車場選び



自動車盗難の大半は、駐車場で発生。自宅の駐車場なら、照明や防犯カメラを設置。月極駐車場なら、夜間でも明るく防犯設備の充実した場所を選びましょう。

動画は「こちら」から!



必見! ヤッターマンがドロボー一味から自動車を守る動画

車両盗難対策分科会
大屋 俊一郎 分科会長 (日産自動車)

自動車の盗難及び盗難車の不正輸出を防止すべく、「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」が2001年に設置され、広報啓発活動として、毎年本キャンペーンの企画立案に自工会として参加し、今年で20年目となります。自動車ユーザーに対し、自動車盗難の注意喚起、盗難防止対策の理解促進、必要性を訴求して参りました。自工会は、10月より組織

変革で大きく変わることとなり、自工会の車両盗難対策分科会として官民合同で取り組んできた本キャンペーンへの係わりは一区切りとなりますが、今後も新たな体制での更なる取り組みを期待いたします。ヤッターマンがドロボー一味から自動車を守る動画、ぜひご覧ください。





自工会 女性活躍促進WG主査

くぼた ちひろ
久保田 千尋さん

インタビュー
Interview

本田技研工業株式会社
人事部採用グループ

コロナ禍で 初のオンライン開催 女子中学生や 高校生に魅力紹介

少子高齢化が進む日本において、モノづくりの新たな担い手として期待される「理系女子」。自動車産業を含め多くの企業が理系女子の獲得に力を入れています。ただ、男性に比べて理系を選択する女子学生の数は圧倒的に少ないのが現状です。こうした中、日本自動車工業会は文理選択前の女子中学生や高校生を対象に理系の魅力を発信するイベント「Drive for the Future」を毎年実施しています。

まずは理系を選択肢に
オンラインで参加者が全国に拡大

■女性が必要

「イベント開催趣旨について教えてください」

「自動車業界が将来生き残るため、多様なエンジニアを採用し育て、お客様のニーズに応えるモノづくりにつなげていきたい」という思いがあります。特に自動車業界ではエンジニアの男性の比率が高いのですがクルマを使われる方は女性も含め様々で、そういった意味で女性エンジニアを増やしていきたいと考えています。そもそも理系に進学する女性は極めて少なく、まずは理系を選択してもらい、ゆくゆくは自動車業界を目指してもら

う道筋の一つになればと思っています」

■開催の手応え感じた

「今回はオンラインでの開催となりました」

「生徒さんとの双方向「ミニセッション」、小グループで座談会が可能なZOOMを活用しました。今回良かったなと思ったのは、例年ですと東京と大阪の2会場で行っていましたが、オンラインの特性を生かし全国の生徒さんに参加してもらえたことです。それぞれに悩んでいることもバラバラでしたが、非常に意欲的な人もいてエンジニアに熱心に質問

6回目で初のオンライン開催

9月6、9日に実施、約100人が参加

今回で6回目を迎えた理系女子応援イベント「Drive for the Future～あなたの想いを走らせる仕事～」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにオンラインで開催しました。開催日は9月6、9日と分けて実施し、理系に関心を抱く女子中学生と高校生約100人が参加。自動車メーカーに勤務する女性エンジニアが登壇し、仕事の魅力を語りました。

オンラインセミナーツールを活用

イベントはこれまで会場で行ってきましたが、今回はビデオ会議システム「ZOOM(ズーム)」を導入し、生徒が自宅から参加できるようにしました。前半は自動車メーカーに勤務する女性エンジニアによるパネルディスカッションを行い、後半は複数のグループに分かれて参加者を交えたフリートークを行いました。



「好き」を選択する

パネルディスカッションでは、各メーカーの女性社員が会社での1日の過ごし方やエンジニアとしてのやりがいなどを紹介。コロナ禍でリモートでの働き方や子育ての両立方法なども紹介しました。フリートークでは、女子中・高校生から進路選択の悩みや勉強法などについて質問が上がりました。数学が苦手な理系への進路選択を悩んでいる中高生に対しては「得意か苦手かではなく、好きか嫌いかで選択したほうが将来続けていける」とアドバイスしました。

する様子が見れて良かったです」

■理系進学へ背中を押す

「どのようになエンジニアの魅力
を伝えましたか」

「パネルディスカッションをはじめイベントに参加する社員の人選が大事だと考えています。各社とも若手で活躍されている女性エンジニアが登壇し、こだわりを持ってモノづくりに取り組んでいる生の声を伝えることで、中高生の理系への進学の背中を押す部分もあると思います」

■活躍の場はたくさんある

「理系女子を取り巻く環境は
変わりましたか」

「自動車業界を問わず積極的に採用して取り合いになっています。理系に進めば選択肢は広がります。引く手あまたの状況は続くのではないのでしょうか。業界は100年に一度の変革期と言われている、自動車産業は『活躍のフィールドがたくさんあるよ』ということを中高生にしっかりとアピールしていきたいですね」

自工会・2020年

秋の交通安全キャンペーンのご案内



一般社団法人日本自動車工業会(会長:豊田 章男、以下自工会)は、9月21日(月)~12月31日(木)までの間、政府の実施する秋の全国交通安全運動*と連動し、「自工会・2020年秋の交通安全 キャンペーン」を実施します。

*主催:内閣府他、期間:9月21日(月)から9月30日(水)

■秋の交通安全キャンペーン ~秋の交通安全のおまじない ハヤ・ピカ・パット~

秋の交通安全のおまじない
ハヤ・ピカ・パット
秋の交通安全キャンペーン期間
2020年9月21日~12月31日

一般社団法人 **日本自動車工業会**

本年7月末の交通事故の発生件数は17万438件と前年同期より4万8105件減少(マイナス22.0%)し、死者数は1548人で前年同期より99人減少(マイナス6.0%)となっております。

しかしながら、交通死亡事故は例年10月から年末にかけて薄暮時間帯に多く発生していることから、運転者及び歩行者にこのような状況を周知して安全意識の醸成を図ることが重要です。

当会としては、2016年に政府が作成した第10次交通安全基本計画において、世界一安全な道路交通を実現するため、2020年までに交通事故死者数を2500人以下とする目標の実現に向けて、一層の車両安全対策に取り組むとともに、交通安全活動の一環として秋の交通安全キャンペーンを実施し、安全な交通社会の実現に貢献してまいります。

秋の交通安全スローガンの考え方

本キャンペーンは、一人ひとりの交通安全に対する意識を行動につなげて習慣化することを目的に実施。ポイントとして、日本人に古くから馴染みのある「おまじない」に着目し、日本交通心理学会協力のもと、心理

学的に効果のある「おまじない」を開発しました。

開発した「おまじない」には、何度も唱え、記憶することで、日常的な交通安全行動を心がけて欲しいという願いが込められています。

キャンペーンの訴求テーマ

●ドライバー向けテーマ…
「夕方早めのヘッドライト点灯促進、ハイビームの有効活用促進」
例年、秋と冬の薄暮時間帯の

死亡事故件数は春と夏に比べて大幅に増加しており、特に薄暮時間帯における「自動車対高齢歩行者」の横断中の死亡事故件



「ハヤ・ピカ・パット??」の安全行動を推進

交通安全キャンペーン検討分科会
坂主 よしみ 分科会長 (トヨタ自動車)

交通事故死者数は昨年、昭和23年以来で最も低い3,215人となりました。交通事故ゼロに向け、各社が、衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い急加速抑制装置など、事故防止技術を相当なスピードで進化させ、普及に努めたことも奏功しているといえます。同時に自工会では“人”に焦点を当てた啓発活動にも地道に取り組んでいます。

交通事故の未然防止のためには、“人”つまりドライバー・ライダー・歩行者お一人お一人が交通安全意識を持ち、常に安全行動をとることが重要であると考えています。自工会は、様々な交通安全教育に加え、安全行動への「気づき」を幅広くかつ多くの方にお届けするため、SNS、デジタルメディア等を活用した「交通安全キャンペーン」を、春と秋に展開しています。

本年、コロナ禍で体験型交通安全講習の実施が難しい中、スマホ等での動画視聴が有効な啓発手段になるのではないかと思います。

今回発表したキャンペーンは秋から冬の事故実態に基づき、「夕方早めのヘッドライト点灯」、「ハイビームの有効活用」、「反射材の着用」を重点に訴求。

死亡事故は、秋、つるべ落としのごとく暗くなる薄暮時間帯に大幅に増加します。例えば、早めのライト点灯やハイビームは、ドライバーの視認性を高めるためだけではないんです。歩行者にはライトでクルマの存在を知らせ、万が一の早めの回避行動につなげることができるんです。訴求内容を動画活用により、わかりやすく解説しています。

また、日本交通心理学会様に協力いただき、「ハヤ・ピカ・パット」というおまじないを作り、これは何だろう?と興味を持っていただき、啓発内容を人の記憶に留める工夫をしました。さらに、このおまじないをお茶の間に人気の高いタレント、柳原可奈子さんから訴えていただき、ご家族・友人との話題喚起につながればと思います。

例年、秋から冬にかけて、交通事故件数、死者数が増加する傾向がありますので、この「ハヤ・ピカ・パット」のキャンペーンが、安全行動につながる「気づき」を多くの人に与え、1件でも多くの交通事故を未然に防ぐことができるよう心より願っています。

数は時間あたり昼間の約14倍となっています。(*1)
また、「自動車対歩行者」の夜間における死亡事故は、ハイビームを活用することで5割以上が回避できた可能性があるとの調査結果が出ており(*2)、ドライバーは、夕方早めのヘッドライト点灯、およびハイビームを有効活用していくことが重要です。

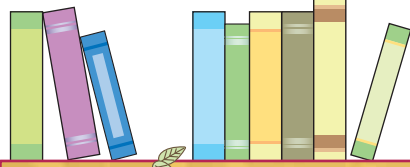
●高齢歩行者向けテーマ…「夕暮れ時の道路横断への注意喚起(反射材の着用促進)」
薄暮時間帯における道路横断中の高齢歩行者の死亡者数は上記のとおり非常に高いことから、夕暮れ時から夜間において道路を横断する際は安全を確認し、反射材を着用することが重要です。

●二輪ライダー及び同乗者向けテーマ…「ヘルメットの正しい着用促進、胸部プロテクターの着用促進」
二輪車の死亡事故の約68%が、頭部胸部が損傷主部位となり死亡しています。(*3)
また二輪車乗車中の事故死者のうち約30%が事故時にヘルメットが離脱していることから二輪車の死亡事故リスクを

減少させるためには、あごひもをしっかり締めるなどのヘルメットの正しい着用や、胸部プロテクターを着用することが重要です。
(*1)令和元年秋の全国交通安全運動を見据えた交通事故分析について
(*2)2017年警察庁「交通死亡事故の特徴等について」
(*3)令和元年中の交通死亡事故の発生状況及び道路交通法違反取締り状況等について

キャンペーンサイトはこちら! <https://jama-cp-anzen.jp/>





CAR Manufacturer 自動車博物館 関連施設 紹介シリーズ

日産自動車／ニッサン パビリオン

「ニッサン パビリオン」は、日産自動車が開く未来のモビリティ社会をインタラクティブに体感できる、体験型エンターテインメント施設です。同社が本社を構える横浜市との連携協定に基づき、グローバル本社近隣のみなとみらい地区に期間限定でオープン。「ニッサン パビリオン」では「人間の可能性を拡張する」をキーワードに最先端の運転支援技術「プロパイロット」や見えないものを可視化する技術「Invisible-to-Visible(I2V)」の他、「電気」を軸に、EVのある暮らし・社会をより豊かにするためのソリューション「Nissan Energy」など、未来の街を誰もが遊べる施設です。



コンテンツ

新型クロスオーバーEV「日産 アリア」展示・乗車体験

新型「日産アリア」でパビリオン内の専用路を同乗体験することもできます。(先着順の会場予約制)排ガスを一切出さない100%電気自動車が可能にするここでしかできない体験です。



THE THEATER (ザ シアター)

新型「日産アリア」が登場するショー、100%電気自動車レース「FORMULA E」の疑似体験、見えないものを可視化する「I2V(アイツーヴィ)」技術で大坂なおみ選手(ブランドアンバサダー)の200kmhサーブを打ち返す「NAOMI BEATS」など、先進技術を応用した迫力の映像エンターテインメントをお楽しみいただけます。

THE LIFE (ザ ライフ)



家族や恋人をテーマに、「プロパイロット」をはじめとした先進運転支援技術が可能にする未来を描いた、パビリオン限定の2本のショートムービーを上映しています。



NISSAN CHAYA CAFE (ニッサン チャヤ カフェ)

再生可能エネルギーを使って運営するカフェ。カフェの屋根に設置された太陽光パネルで発電、「日産リーフ」に蓄電し、その電力をカフェの一部の電力として使用しています。水耕栽培で育った野菜や、横浜ビールとコラボした「日産オリジナルビール」、地元神奈川県産の食材を使ったこだわりのメニューをご用意しています。

THE CITY (ザ シティ)

日産が目指すビジョンとそれを支える技術を表現したインスタレーション。事故のない交通社会は、特殊なレーザーで衝突を回避する「センシング技術」を応用した刺激的なアート空間で表現されています。

*ニッサン パビリオンでは、東京電力エナジーパートナーが提供する、発電時にCO₂を排出しない水力発電のグリーン電力メニュー「アクアプレミアム」を採用しています。

インフォメーション

■ニッサン パビリオン概要

オープン期間

2020年8月1日(土)～10月23日(金)

住所 〒220-0012 神奈川県横浜市

西区みなとみらい6-2-1

営業時間 平日 11:00～19:00

土日祝10:00～19:00

料金 無料 休館日 不定期

新型コロナウイルス感染症の対策として、開催にあたっては神奈川県ガイドラインに沿って十分な安全対策を講じます。また、混雑を避けるために一時的に入場制限を行う場合があります。オープン期間は、情勢を鑑みて変更する可能性もあります。

【提供】掲載の資料…ニッサン パビリオン
写真……………加藤純平

■アクセス

電車 JR・京急線横浜駅より、中央通路から東口に進み徒歩10分(はまみらいウォーク先)、みなとみらい線新高島駅3番出口より徒歩5分

バス BAYSIDE BLUE(ベイサイドブルー)「横浜駅前」(始発)より約7分、「高島中央公園」目前、運賃は大人片道220円

※会場には駐車場がございません。公共交通機関をご利用の上ご来場ください。

本パビリオンには、「移動を、もっと自由に」をコンセプトに来場者のスタイルに合わせて移動手段を選んでいただけるよう、クルマや自転車のシェアリングサービス(NISSAN eシェアモビ、チョイモビ、ベイバイク)を備えたモビリティハブを設けています。また、近未来体験の一つとして、駐車料金をお金ではなく「日産リーフ」など電気自動車の電気で賄うEV利用者専用のニッサンエナジーシェアパーキングを事前予約制(予約サイト <https://coubic.com/nissanpavilion/839964#pageContent>)で用意しています(給電をしていただいた方にはカフェで利用可能な特典があります)。なお当スペースは、Vehicle to buildingを利用した給電専用パーキングのため、クルマへの充電はできません。



ニッサン
パビリオン
ホームページ





朝日新聞社
いながき ちはや
稲垣 千駿

ああ、夏休み

◎記者になって、夏休みは幼い頃や学生時代にも増して一大イベントになった。担当次第で事件や事故、大きなニュースで呼び出されることがあり、週末は遠出しにくい。夏と冬の長期休暇だけが唯一、県境を気にせず移動できる。「とにかく遠くへ」と飛行機と自動車を使い、気の向くままに旅するのが毎年の楽しみだ。

◎ただ、今年は違った。世界中で新型コロナウイルスの感染が広がり、国内でも終息が見通せない。社会情勢はめまぐるしく変わり、休みを満喫できる状況ではなかった。

◎そんな中、大学の友達からキャンプに行かないかと誘われた。いわゆる「ソロキャンプ」だ。一人でテントを張って自然を楽しめるといい、雑誌で特集も組まれている。友達はアウトドアブームに触発され、道具を買いそろえていた。

◎車で移動し、一人で泊まるなら感染予防になる。「新しい日常」にぴったりだと思ひ、必要な道具を調べ始めた。テント、寝袋……。特に

調理器具は巣こもり生活で料理に凝り、見始めたら止まらない。

◎幼い頃、キャンプは両親がよく連れて行ってくれた。家のSUV（スポーツ用多目的車）で早朝に出て、友達家族と合流。川で遊び、バーベキューや花火を楽しんだ。悪路を気にせず走れるのももちろん、キャンプは思い出深いSUVで行きたくなる。

◎ただ、さすがに車は買えない。レンタカーやカーシェアを検討し始め、それでも結構な出費になると気付いた。道具をそろえれば秋以降もキャンプができるが、そもそもソロをいつまでも楽しみたいわけではない。そんなことを考えているうちに、国内の感染者は7月末に初めて1千人を超え、各地で最多を更新。県境をまたぐ帰省を控えるよう呼びかけられると、ソロキャンプすら行くのは気が引けた。

◎結局、お盆休みは帰省もせず、自宅にこもることに。適度に運動し、本を読み、食べて、寝る。楽しみは定額制（サブスクリプション）の

サービスで映画やドラマを見ること。特に、話題のドラマ「愛の不時着」は北朝鮮の軍将校と韓国の財閥令嬢の恋愛、両国の人間模様は何度も涙し、気に入ったシーンを繰り返し見たほどだ。

◎4月から自動車業界を担当するようになり、無意識に車にも目がいった。ドラマでは北朝鮮の軍幹部の車は決まってジャガー。現地でも気なのか気になり、ジャガー・ランドローバー日本法人に問い合わせ、作品とタイアップしていると知った。確かに韓国の財閥家もジャガーに乗り、ヒロインの車は赤いレンジローバーだ。業界では一般的だが、だが面白いと思ひ、気付けば取材モードに。そして、休みは終わった。◎今年も誰かがいつもと違う夏休みを過ごしたはず。これまで容易に行けた場所に行けず、人にも会えない。行きたい、会いたいという気持ちだけが募っていく。来年は終息していますように。そう心から願いつつ、今やるべき目の前の仕事に集中しようと思う。



新たな価値を創造するモビリティ社会の実現、
及び、戦略産業としての更なる進化に向け、
組織体制を大きく変更し、ロゴを一新！

